

国際関係概論 4

林 光

2007年5月10日 木曜日

0 事務連絡

6/14 は休講 .

cf. 囚人のディレンマ

表 2: Prisoners' Dilemma

	C	D
C	2,2	0,3
D	3,0	1,1

1 前々回の復習：第一イメージ

戦争の原因は人間の心 (教育 / 啓蒙しよう!)

「相手が C でも D でも自分は D」=悪人?

2 前々回の復習：第二イメージ

戦争の原因は国内政治体制 (民主化しよう!)

cf. ハーモニー

表 3: Harmony

	C	D
C	3,3	1,2
D	2,1	0,0

3 前回の復習：第三イメージ

K. Waltz

戦争の原因は国家間システム (= アナーキー)

アナーキー survival!/like units 合従連衡 BoP
cf. 古典的リアリズム: 人間の本性 権力闘争 BoP

「相手が C でも D でも自分は C」=聖人?

例: シカ狩り

二人がシカを待ち伏せ. と, その目の前をウサギが...
相手が誘惑に負けるかもという疑心暗鬼にかられる
相手が裏切るなら自分も裏切った方がまし
誰も望まない「非協力均衡」へ至ってしまう悲劇

表 1: Stag Hunt

	C	D
C	3,3	0,2
D	2,0	1,1

「相手が C なら自分も C, でも D なら自分も D」

4 ネオリアリズムの拡張 vs 批判

4.1 拡張: 防御的リアリズム

R. Jervis

アナーキー下では本当に協力はありえないのか?
条件次第では可能

よい均衡 わるい均衡

セキュリティ・ディレンマ

: 自分の安全 のつもりが逆に自分の安全
害意はなくとも相手の疑心暗鬼を招いて悪循環

ただし、その程度を決める二変数
1 攻撃兵器と防御兵器が識別可能か
2 攻撃優位か防御優位か
次第では協力も可能！

S. Walt

本当にパワーに対してバランスしてるのか？
実は脅威に対してバランスしてるのでは？
＝脅威の低い国と組んで、脅威の高い国に対抗
例 1 東欧の新興独立国 露ではなく NATO 側に
例 2 米国に隣接する加・墨の連合はなさそう

3. 今日アメリカは傑出したパワーを手にしており、
「アメリカ人勝ち」「アメリカ極構造」と言われる。
この観察を受け入れた上で、今後世界はどのように動いていくかを予想したい。Waltz と Walt の理論からそれぞれどのような予測が導けるだろうか。またそれぞれアメリカの政策決定者にどのような助言をするだろうか。対比しつつ簡単に述べなさい。

4.2 批判：新古典派リアリズム

R. Schweller

国家の目的=survival という仮定はおかしい！
security seeker ばかりなら戦争にならないはず
国家の目的=survival+*interest*
＝ユニット（現状維持勢力か現状否定勢力か）も大切
古典派（H. Morgenthau etc.）に返れ！
balancing>bandwagoning という主張も崩れる
安全を超えた利益を求めての大同盟はありがち

5 レポート課題

（承前）次の英文を和訳せよ。

1. The strong do what they have the power to do and the weak accept what they have to accept.

2. For four hundred years the foreign policy of England has been to oppose the strongest, most aggressive, most dominating Power on the Continent ... Faced by Philip II of Spain, against Louis XIV under William III and Marlborough, against Napoleon, against William II of Germany, it would have been easy ... to join with the strongest and share the fruits of his conquest. However, we always took the harder course, joined with the less strong Powers, made a combination among them, and thus defeated and frustrated the Continental military tyrant.